

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390100143		
法人名	株式会社ぬくもあ		
事業所名	グループホーム覚王山 2階		
所在地	愛知県名古屋市中種区川崎町一丁目48番地		
自己評価作成日	令和3年11月19日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

24時間365日看護師と常時連携をとれる体制 終末期までケアをおこなう
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2390100143-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2390100143-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームには、看護小規模多機能事業所や訪問看護を併設して運営していることで、医療面での支援が充実していることが特徴でもある。利用者の中には、身体状態の重い方も医療面での支援を受けながら、住み慣れたホームでの生活を継続できるような支援が行われている。併設事業所に看護師が夜勤として勤務していることで、利用者の急変時にも柔軟に対応することができるため、利用者や家族の安心感にもつながっている。地域の方との交流については、例年は、併設事業所と連携したカフェを開催する等、前向きな取り組みが行われているが、現状の感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難な状況になっている。交流が困難な状況の中でも、ホーム周辺の清掃活動を欠かさずに実施したり、近隣の保育園との交流を継続する等、現状で可能な取り組みが行われている。
---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年1月19日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所に理念の掲示があるため共有・実践につなげている。	基本理念をホーム内に掲示し、職員が日常の支援を通じて理念を共有できるような働きかけにつなげている。また、職員が半期毎に目標をつくる取り組みを行いながら、理念の内容の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	保育園長、地域住民からの意見をいただき出来る限りの交流は行っている。	感染症問題が長期化していることで、併設事業所と連携して実施していたカフェが中止になる等、地域の方との交流が困難な状況が続いている。近隣の保育園とは、園児がプレゼントを持って訪問する等、可能な範囲で交流を継続している。	ホームでは、併設事業所と連携したカフェを開催する等、地域の方との前向きな交流が行われていることもあるため、今後の状況をみながら、ホームの取り組みが再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、コロナ禍で開催していないが認知症カフェは開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナのためリモート会議を開き意見書などで意見を取り入れている。	会議については、感染症の状況をみながら開催の判断を行っており、今年度は2回開催している。会議の際には、地域の方や近隣の保育園の園長が参加しており、ホームとの交流の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	必要な事があれば相談、報告をしている。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、併設事業所を通じて行われているが、ホームからも随時の情報交換等が行われている。また、例年は、併設事業所と連携したカフェを通じた、地域包括支援センターとの交流も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の社内研修を行い、理解、実践出来ている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、併設事業所を含めて医療依存度の高い方も身体拘束を行わないように、職員間での検討が行われている。また、職員研修の機会をつくり、注意喚起や振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	社内研修等で日々ケアで細部まで注視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は支援事業や後見人制度の知識はもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に項目ごとに確認を取りながら説明し理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見、ご要望は直接職員に伝え情報共有している。	現状、家族との交流が困難な状況であるが、LINEを活用した面談の機会をつくり等、現状で可能な対応が行われている。家族からの要望等には、内容にも合わせて施設長や副施設長で対応している。また、毎月の利用者毎の便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロアごとに月一回のカンファレンスを開き情報共有を行っている。	毎月のユニット会議や日常的な情報交換等を通じて出された職員からの意見は、施設長や副施設長が把握し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、施設長と副施設長による職員面談の機会をつくり、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期に一回、目標共有シートを作成し、個々にあったし目標を立てている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修には参加してもらうよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現在コロナ禍で出来ていないが、一年に一回社内研修の場はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前にできる限りの情報収集を行い、入居してからは言葉遣いに留意し、入居者様に寄り添ったケアを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にはご家族様から話を伺い、入居後も月に一度は入居者様のご様子をご家族様にお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居初期には転倒リスクの高低、ADLの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様一人ひとりのペースに合わせ、傾聴することやこまめに声掛けすることで職員が中に入ることで関係性を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在は面会の自粛をお願いしていますが、リモートでの面会も出来るようにし、ご家族様、入居者様、職員がコミュニケーションをとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍でなかなか出来てはいたないが手紙等のやり取りはしている。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には、電話や手紙等を活用した交流が行われている。家族との外出については、感染症の状況等をみながら対応しているが、利用者の身内の方の葬式に出かける等の機会がつかられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事やレクリエーションの際に席を考慮する等、環境づくりは心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入居者様の状態やご家族様のご意向を伺い、施設でできる限りのことは支援出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやコミュニケーションをとることで入居者様の希望や意向を把握できるように努めている。困難な方に関してはご家族様に確認をとっている。	利用者や家族に関する意向等は、ユニットリーダーを中心に把握が行われており、職員間での共有につなげている。また、毎月のカンファレンスの時間をつくっており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際には必ずアセスメントし、ご本人様の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	なるべく細かく介護記録へ記入することで日々の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングをすることによって各入居者様の状況把握、計画変更をするように努めている。	介護計画については、ライフサポートプランの様式を活用しながら、基本6か月での支援内容の見直しが行われている。また、日常的にも支援内容の項目に合わせて介護記録を残しており、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録とは別に連絡ノートを使用して情報共有を行うことで、同一ケアを行えるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居するご家族様のご意向に応じて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	出来ることがあればしていきたい。現在コロナ禍で出来る事が限られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様やご家族の希望でかかりつけ医がある場合、受診日に情報提供等を行っている。	運営母体が医療機関であるが、ホームでは、他の医療機関との連携も行われており、利用者の健康状態等に合わせた柔軟な支援につなげている。また、併設事業所と合わせて複数の看護師が勤務しており、医療面での柔軟な支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝礼、夕礼時に情報共有をしている。必要に応じ指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関やご家族様との連絡を取り入院中の状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入院時にご家族様へ緊急な状況変化や重度化した際の対応の説明を行い、同意書をいただいている。看取りまでのケア体制は出来ている。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、利用者や家族の意向等の話し合いを重ねながら、ホームでの看取り支援が行われており、意向等に合わせた対応につなげている。また、看取り支援の際には、家族にも立ち会ってもらう機会をつくっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には同施設内の看護師に連絡する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	おおむね年に2回避難訓練をしている。	年2回の避難訓練を実施しており、併設事業所との合同で訓練を実施し、夜間対応の取り組みや通報装置の確認等が行われている。また、近隣の方との協力関係につなげたり、建物の外の倉庫に水や備蓄品の確保が行われている。	感染症問題が長期化していることで、防災に関する協力関係が困難になっていることもあり、今後に向けた取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとり個別での声かけや対応を心掛けている。	ホームの基本理念を職員間で共有し、日常の支援を通じて実践することで、利用者への対応や言葉遣い等の意識向上につなげている。また、日常の記録の記載内容を確認しながら、利用者への尊重につなげる注意喚起も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己主張されたことに沿った支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	おおむね入居者様のペースに沿った支援を心掛けているが、部分的に施設都合になっていることがあるので改善していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	男性入居者様には毎日の髭剃りや入居者様の更衣時の服の洗濯を一緒にしている。訪問理美容も定期的に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼、夕は医療給食さんのお弁当をとっており、準備や片付けに関しては職員がすべて行っている。	食事については、外部業者を通じて提供しており、利用者の身体状態に合わせた食事形態や糖尿病や減塩等の利用者の健康状態に合わせた対応も行われている。利用者が食事づくりや片付け等に参加する機会が限られている状況でもある。	食事を通じた、利用者の楽しみの機会を増やすためにも、可能な範囲でおやつ作り等の取り組みが行われることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養管理や水分量に関しては医療給食さんや施設内看護師で管理、支援出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	入居者様ご自身でできる方も職員がチェックしたり、できない方には介助にて支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	声掛けや話等の時間を決めて個別の対応に努めている。	利用者全員の排泄状態を記録し、職員間で情報の共有を行いながら、一人ひとりの排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、利用者に合わせて職員2名で支援する取り組みや医師、看護師との排泄に関する医療面での支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日ラジオ体操、食前の体操や水分摂取、又、管理。昨年から腸内環境の改善のため、ヨーグルトをとってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入居の曜日や時間は決まっているため個々の希望通りにはできていない。	利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方も声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。また、併設事業所を含めて、座浴、寝浴の設備が整えられてあり、利用者の身体状態に合わせた入浴支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や希望に応じて自由に居室で休んでもらっている。昼夜逆転にならない様には気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時には必ず職員2名でチェックし、確認を行っている。症状の変化に関しては毎日バイタルを測っており、数値や目視にて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションを充実し、入居者様に合ったことを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	コロナ禍でなかなか外出することが出来なかった。職員とともに施設周りを散歩する程度。	感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、ホームの近隣を散歩する機会をつくる等、可能な範囲で外出支援が行われている。感染症問題が起きる前までは、季節に合わせた外出行事の取り組みが行われている。	利用者の外出が限られた範囲となっていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	大半の方が紛失してしまう可能性が高いので、事務所で預かっている。本人希望や必要に応じて買い物等は行っている。本人の希望の場合は持っていたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持っている人もいて自由にお話されている。手紙のやり取りもある。現在施設ではタブレットを使用し、オンライン面会もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境整備は常に行うように努めている。	ホーム内は限られた広さであるが、リビングが建物の2階と3階につくられていることで、利用者は日中の時間を明るい雰囲気でも過ごしている。また、壁面には季節等に合わせた飾り付けを行い、アットホームな雰囲気づくりにつなげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席の配置は行っているが、基本的には自由にしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様や入居者様の使い慣れた馴染みのある物を持って来ていただき、慣れ親しんだ環境づくりを心掛けている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室については限られた広さであるが、洗面台が設置されており、衛生面の配慮が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共有スペース、居室共に環境整備には常に気を付け、安心、安全、安楽な生活が送れるように心掛けている。		